

ペットボトルリサイクル在り方検討会
ヒアリング資料(平成29年6月9日)

ペットボトルリサイクルシステムに思うこと

記

I) 現況

「公平性・透明性が増し、良い方向に進んでいる」

1) 高付加価値の食品関係(BtoB・食品向けシート)の増加

近年 中小のリサイクラーは減少(約10社が辞めた)、食品関係の大手参入で BtoB・食品向けシート向けが増加している。食品分野では、品質・価格ともバージン原料と単純に比較されるので、バージン動向に敏感になっていると感じています。

2) 「リサイクラーのリスクは、依然として大きい」

リサイクラーの不安定な事業状況は続いていると思います。不安なところを自主ルートや事業系の活用・他の事業で補っているのが実態ではないかと感じています。リサイクラーのリスクをもっと小さくすべきと思います。

リサイクラーのリスク

①入札時の原料確保の不安定さ ②原料確保から利用事業者と販売条件決定までのバージン価格変動の影響を受けている。

II) 改善について(リサイクラーのリスク軽減)

1) 入札の回数を増やす

バージン価格変動に対応するためには入札回数をもっと多くすることが必要だと思います。

2) 3ヶ月ルールの廃止

販売期間が決められることはリサイクラーの交渉を弱くしていると思います。有価物であり通常の商取引(月末締翌月末支払い等)にしてリサイクラーの責任のもとに販売にあたる必要があると思います。

3) 同意書の強化

同意書をもっと責任あるものにできないかと考えます。取引が同意書と大きく異なる時には、ヒヤリング等を行ないシステム改善に繋げてほしいと思います。

III) その他

1) BtoB別枠の検討について

これまでの公平性なシステムから外れるもので「反対」です。高付加価値分野です、現行入札制度の中企業努力でBtoBへの拡大に取り組んで欲しいと思います。

2) 自主ルート・事業系輸出減少時の用意

綺麗でないボトル・フレークの輸出が止まる可能性もある国際情勢です。準備の必要性を感じています。

IV) まとめ

今後はこれまで以上にバージン動向の影響が大きくなると思います。リサイクラー・利用事業者の意見が反映されるシステム改善を期待しています。

以上

平成29年6月9日

有限会社オールフォーオール
鈴木基史